

**CONTENTS**

- 活動報告・各種会議議事録
- 会員動静
- 学会関連カレンダー
- 「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018」のご案内
- 「農薬について知ろう」ウェブサイトのご案内
- 講師派遣のご案内
- 【予告】農薬科学研究奨励金のご案内

令和4年度 第4回常任評議員会議事録

日 時：令和4年11月26日(土) 13:00~16:20

開催方法：Web開催

出席者：出席者13名（第48回大会組織委員長を含む）、欠席者3名

議事：

I. 令和4年度第3回常任評議員会議事録を確認した。

II. 経過報告および議案

1. 第48回大会について
 - ・大会組織委員長から、大会のスケジュールおよび準備状況についての説明があった。
 - ・大会当日のキャンパスへの入構方法について説明された。
2. 財務関係（会計報告）
 - ・令和4年度予算執行状況および令和5年度収支予算書案について説明があった。
 - ・令和5年度学術小集会予算案については、追ってメール審議をすることとした。
3. 編集委員会
JPS誌への投稿状況およびインパクトファクターの推移に関する資料を確認した。
4. 選挙管理委員会
先に行われた日本農薬学会役員選挙の投票結果が報告された。
5. 学術・技術支援委員会
 - ・令和4年10月19日に実施された残留農薬分析セ

ナーについて報告があった。

- ・講師派遣の予定について説明された。
6. 農薬科学研究奨励金について
応募状況についての報告があった。後日、締め切りまでに5件の応募があったことが報告された。
 7. 将来計画委員会
大会における講演の分類を改訂することが提案され、承認された。
 8. 学会賞受賞者選考委員会
 - ・受賞者選考過程と結果について
賞選考委員会において受賞候補者を選考し、評議員の投票により業績賞（研究）1件、業績賞（技術）1件、論文賞1件が決定されたことが報告された。
 9. 技術士育成推進委員会
技術士試験の日程について説明があった。
 10. 三学会会長懇談会
令和4年11月17日に行われた懇談会の報告があった。
 11. 日本昆虫科学連合、日本植物保護科学連合
日本植物保護科学連合が12月3日に開催予定の公開シンポジウム「持続的な食料保障に向けた植物保護の新技术」についての説明があった。
 12. 公益財団法人農学会、一般社団法人日本農学会
 - ・一般社団法人日本農学会の日本農学賞への日本農薬学会からの推薦について、候補者の推薦状況と今後の選考予定について説明された。
 - ・公益財団法人農学会の日本農学進歩賞に関して、選考結果の報告があった。
 13. 国際学会の渡航費補助について
 - ・現在のところ新たな申請はないとの報告があった。
 - ・今後、リモートで開催される国際会議への参加についても補助をすることが提案され、承認された。
 14. 入退会の報告
 - ・令和4年8月21日~11月15日の期間における入退会の報告があり、正会員8名、学生会員5名、および海外会員1名の入会が承認された。
 15. 会員区分と終身会員・名誉会員の推薦について
 - ・65歳以上のシニア会員の設定が提案され、評議員会

に上程することが承認された。

- ・学生会員の会費を卒業後2年間は学生会員会費のまま据え置くことが提案され、評議員会に上程することが承認された。
- ・終身会員12名と名誉会員5名の候補者について説明があり、終身会員については評議員会に推薦すること、名誉会員については総会への推挙を評議員会へ提案することが承認された。
- ・終身会員・名誉会員の選出に関する内規の改正について提案があり、承認された。

令和4年度 第5回常任評議員会議事録

日 時：令和5年2月4日(土) 13:00～16:10

開催場所：日本植物防疫協会 地下会議室（オンライン併用ハイブリッド形式）

出席者：15名（うち3名がオンライン参加）

議事：

I. 令和4年度第4回常任評議員会議事録を確認した。

II. 経過報告および議案

1. 第48回大会について

- ・大会の準備状況および参加登録状況について報告された。
- ・大会当日のキャンパスへの入構方法について説明された。
- ・大会前日に予定されている各委員会の会場手配について確認した。
- ・名誉会員推挙と終身会員推薦の案が説明された。
- ・評議員会および総会のタイムスケジュールを確認した。
- ・学生の優秀発表賞の審査および結果発表方法について確認した。

2. 財務関係

・会計報告

令和4年度決算について説明と会計監査を受ける予定が報告された。また令和5年度予算案では、50周年記念事業基金を新設することなどが提案された。

3. 編集委員会

- ・昨年度の投稿数、および公開中の論文へのアクセス並びに引用状況について説明があった。
- ・日本農薬学会誌第48巻第1号、およびJPS Vol. 48, No. 1の編集状況について報告された。

4. 次期役員について

- ・次期監事、評議員（案）を確認し、評議員会へ提案することが承認された。
- ・評議員数の選出に関する会則を改定することが提案された。

5. 学術・技術支援委員会

- ・令和4年12月17日に開催された、令和4年度第2回学術・技術支援委員会について報告があった。
- ・「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ」の改訂計画が説明された。

6. 農薬科学研究奨励金二次審査

- ・一次審査結果の概要が説明された。
- ・会長副会長および常任評議員による投票を行い、奨励金受給候補者2名を選考した。

7. 将来計画委員会

第48回大会で開催予定のシンポジウムについて説明された。

8. 技術士育成推進委員会

第48回大会で開催される技術士セミナーの講師などの準備状況について説明された。

9. 日本昆虫科学連合、日本植物保護科学連合

日本昆虫科学連合が関わる2024年8月に実施予定の国際昆虫学会議について説明があった。

10. 公益財団法人農学会、一般社団法人日本農学会

今後の会議の予定について説明された。

11. 国際学会の渡航費補助について

新たな申請はなかったとの報告があった。

12. 共催について

第34回国際生物科学連合総会への共催について確認した。

13. 入退会の報告

令和4年11月16日～令和5年1月31日の期間における入退会の報告があり、正会員16名、学生会員26名、および海外会員1名の入会が承認された。

14. その他

- ・来年度大会の開催地と開催時期について説明があった。

令和4年度 第6回常任評議員会議事録

日 時：令和5年3月7日(火) 13:00～14:50

開催場所：東京農業大学世田谷キャンパス1号館212教室

出席者：15名（第48回大会組織委員長を含む）+4名（新常任評議員）

欠席者：1名+3名（新常任評議員）

議事：

I. 令和4年度第5回常任評議員会議事録を確認した。

II. 経過報告および議案

1. 第48回大会準備状況について

- ・名誉会員推挙式、学会賞授賞式、特別講演、受賞者講演、一般講演、およびシンポジウムについて、スケジュールと準備状況を確認した。
- ・第49回評議員会資料および進行について確認した。

- ・会則の改定2件（65歳以上の正会員の会費減額・学生会員から正会員に変更した場合の会費据え置きの特、会長の指名する評議員の人数変更の件）について、評議員会と総会に付議すること、規定の改定3件（50周年記念事業基金新設、表彰規定における推薦人の拡大、国際会議等派遣研究者応募規定における助成上限額引き上げ）について、評議員会に付議することを確認した。
 - ・第48回通常総会資料および進行についても同様に確認した。
 - ・第48回大会におけるマスコミ取材の申し込みへの対応について説明があった。今後、学術小集会や大会へのマスコミ取材があった場合に備えて、マスコミ取材に関する内規を定めておく方が良いという意見があり、引き続き検討していくこととした。
2. 財務関係
- ・令和4年度収支決算書、貸借対照表、正味財産増減計算書などについての説明があった。
 - ・令和5年度収支予算案についての説明があった。
 - ・内部監査に関する報告があった。会計に関して関係書類が適正に処理されていること、業務に関して事業が適正に運営されていることが監査で確認されたと説明された。業務監査において、ニュースレターの内容を分かりやすく改善すべきであることや、学会ホームページの利用向上を図るべきであるなどのコメントがあったとの報告があった。
3. 編集委員会
- 学会誌JPSへの投稿状況、アクセス状況、およびIFの推移について報告された。
4. 学術・技術支援委員会
- ・講師派遣の講演会が令和5年2月7日に実施されたとの報告があった。
 - ・令和4年度に交付された農業科学研究奨励金のうち1件について、交付辞退の申し出があったとの説明があり、その手続きを確認し、承認された。
5. 2023～2024年度専門委員会委員長・委員について、および2023～2024年学術小集会委員長・委員についてそれぞれについて委員長と委員を確認した。今後委嘱状を送付するとの説明があった。
6. 将来計画委員会
- 第48回大会でシンポジウムを開催することが改めて説明された。
7. 技術士育成推進委員会
- 第48回大会の技術士セミナーについて説明があり、講師に旅費を支出することが報告された。
8. 日本昆虫科学連合、日本植物保護科学連合
- ・2024年に京都で開催予定の国際昆虫学会議について説明があった。
 - ・日本学術会議農学委員会植物保護科学分科会の次期会員として、農業学会から松田次期会長を推薦したことが報告された。
9. 公益財団法人農学会、一般社団法人日本農学会
- 一般社団法人日本農学会の2023年度日本農学賞の受賞者が決定したことが報告された。
10. 文書管理と公開方法
- ・常任評議員会の議事録確認を「メールなどでの確認」に改め、議事録をニュースレターで早期公開するべきとの意見が紹介され、検討することとした。
 - ・現ニュースレターに掲載されている議事録以外の資料についても、分かりやすくファイリングを行い、会員に公開していくことが確認された。
11. 国際学会の渡航費補助について
- 国際会議等派遣の研究者応募規定を改定して助成上限額を引き上げるることについて説明され、承認された。
12. その他
- 次期運営体制について、松田次期会長より説明があった。

日本農業学会第49回評議員会 議事録

日時：令和5年3月7日(火) 16:30～18:00

開催場所：東京農業大学世田谷キャンパス1号館142教室

出席者：塩月会長、松田副会長、橋本副会長、三谷副会長、三富監事、評議員41名、委任状39通、顧問・監事3名、第48回大会組織委員長、次期新評議員7名（オブザーバー）

評議員会成立の確認

出席並びに委任状を提出した評議員（80名）が定足数（35名、評議員総数101名および会長副会長4名の1/3以上）に達していることを確認したのちに、会則第29条に則り塩月会長を議長として議事を進行した。

議事

1. 令和4年度会務報告

第48回通常総会資料に基づき、総務・編集・渉外・賞選考の各項目について委員長または担当常任評議員が報告を行い、質疑を受けたのち、承認された。

2. 会則の改定案の総会への付議の承認

会則の改定2件について説明された。

 - ・正会員の会費に係る会則第8条について、以下のよう
に改定することが提案された。「正会員（年額）
10,000円（ただし65歳以上で申し出があれば5,000円
とし、学生会員から変更した場合は2,000円を2年間
据え置く。）」
 - ・会則第13条および第16条において、会長が指名する

- 評議員数の上限を従来の20名から30名に変更することが提案された。
以上2件について、総会への付議が承認された。
3. 規定の改定案の承認
規定の改定3件について説明があった。
- 日本農業学会基金規定に、50周年記念事業基金を新たに加えること
 - 日本農業学会表彰規定において、奨励賞および業績賞の受賞候補者を推薦できる範囲を、従来の常任評議員および学術小集会委員長から正会員全体へ広げること
 - 日本農業学会国際交流基金海外助成金による国際会議等派遣研究者応募規定において、地域別の助成上限額を引き上げるとともに、リモート会議も助成対象とすること
- 表彰規定に関しては「推薦できるものとする」と文言を修正することとした。
以上3件について、質疑を受けたのちに承認された。
4. 日本農業学会倫理行動指針の制定
日本農業学会倫理行動指針の制定について説明された。
5. 令和5・6年度日本農業学会役員選挙結果の報告
第25期（令和5・6年度）日本農業学会役員の選挙結果が報告され、承認された。
6. 令和4年度会計報告ならびに会計監査報告
第48回通常総会資料に基づき、収支決算について三谷副会長が報告を行った。
令和4年度に交付された農業科学研究奨励金のうち1件について交付辞退の申し出があったが、返還される奨励金は平成5年度の決算に反映されるとの説明があった。
続いて三富監事から、学会並びに学術小集会の活動が適正であり、収支決算の内容が的確であったとの業務・会計監査結果が報告された。
以上の報告について質疑を受けたのち、承認された。
7. 令和5年度事業計画案ならびに収支予算案
事業計画案および収支予算案について担当常任評議員が説明を行った。
令和5年度収支予算案については、「II投資活動収支の部」の「2. 投資活動支出」の中の項目名に誤りがあることが指摘され、修正の上、承認することとした。
8. 名誉会員推挙の承認、終身会員の承認
名誉会員として佐藤 清 氏、辻 孝三 氏、星野 敏明 氏、本山 直樹 氏、米山 弘一 氏を推挙することが提案され、承認された。
終身会員として五十嵐 丕 氏、大津 悠一 氏、加藤 保博 氏、切畑 光統 氏、熊沢 智 氏、桑野 栄一 氏、児玉 治 氏、小林勝一郎 氏、山脇 孝博 氏、吉川 博道 氏が推薦され、承認された。
9. 会長指名の役員の承認
次期会長指名による役員（副会長2名、監事1名、評議員20名）が提案され、承認された。
10. 令和5・6年度日本農業学会常任評議員の承認
令和5・6年度日本農業学会常任評議員が紹介され、承認された。
11. 第49回大会について
第49回大会を令和6年3月に近畿大学奈良キャンパスにおいて開催することが承認された。森本次期大会委員長に代わって、同大学の松田次期会長から挨拶があった。
12. その他
以下の内容の質疑が行われた。
- 会則の改定により会長指名の評議員数の上限を引き上げる件に関して、会員数が減少しているにもかかわらず評議員数を増やすことについて質問があった。評議員数を増やすことにより学会活動の活性化につながり、ひいては会員数の増加につながることを期待できるとの説明があった。
 - 50周年記念事業の進捗状況について質問があり、ある程度方向性は決まっており、順調に準備が進んでいるとの説明があった。
 - 国際会議等派遣研究者応募規定の改定により、助成上限額を引き上げる件について、財源に関する質問があり、財源を計上していることが説明された。
 - 会計報告において、寄付を下された方の名前を基本的には明らかにする方が良いという指摘があり、資料に脚注を付けるなどの方法による名前の公表を検討することとした。
 - 交付された令和4年度農業科学研究奨励金の辞退の申し出について、会計取扱いに関する質問があり、返還金は令和5年度の雑収入として扱うことが説明された。

日本農業学会第48回通常総会 議事録

日 時：令和5年3月8日(水) 10:00～11:10

開催場所：東京農業大学百周年記念講堂

会則第24条に則り、塩月会長を議長として議事を進行した。
議事：

1. 令和4年度事業報告および決算報告
総務・編集・渉外・賞選考の各項目について各担当者が報告を行った。次いで、収支決算について会計担当者が報告を行った。その後、佐藤監事から、学会並びに学術小集会の活動が適正であり、収支決算の内容が的確であったとの業務・会計監査結果が報告され、承認された。

2. 終身会員の推薦
第49回評議員会において終身会員10名が承認された旨報告があった。
3. 会則および規定の改定
評議員会にて承認された、規定の改定3件について説明があり、会則の改定2件が承認された。
4. 倫理行動指針の制定
日本農薬学会倫理行動指針の制定について説明され、承認された。
5. 令和5年度事業計画案および収支予算案
事業計画案および予算案について各担当者が説明を行い、原案の通り承認された。
6. 名誉会員の承認
第49回評議員会の議を経て会長が推挙した名誉会員5名の紹介があり、承認された。
7. 令和5・6年度 日本農薬学会役員選挙結果の報告
第25期（令和5・6年度）日本農薬学会役員選挙結果が報告された。
8. 第49回大会
第49回大会を令和6年3月に近畿大学奈良キャンパスにおいて開催することが第49回評議員会で承認されたとの報告があった。
9. その他
令和4年度に交付された農薬科学研究奨励金のうち1件について、交付辞退の申し出があり、評議員会で承認されたとの報告があった。

資料

I 会務報告

1. 総務関係報告

1) 会員異動（令和4.1.1～令和4.12.31）

	令和3年	令和4年12月31日現在			増減 (△減)
	12月31日 現在	国内	国外	計	
名誉会員	21	19	1	20	△1
終身会員	54	59	0	59	5
正会員	897	822	11	833	△64 ^a
学生会員	44	37	0	37	△7 ^b
維持会員 (口数)	35 (69口)	35 (69口)	0	35 (69口)	0 (0口)
団体会員	72	69	0	69	△3
購読会員	16	4	10	14	△2

^a入会者：46名，退会者：40名，会費未納者：70名

^b入会者：14名，退会者：16名，会費未納者：5名

2) 会誌の発行

発行および頒布部数（令和4.1.1～令和4.12.31）

誌-巻-号	農薬誌-47-1	農薬誌-47-2
発行部数	1240	1240
会員頒布	1070	1070
一般購読	14	14
寄贈	23	23
広告・PR	10	10
事務用	2	2
保存用	5	5
計	1124	1124
残存部数	116	116

3) 日本農薬学会第47回大会

- (1) 第47回大会（R4.3.7～R4.3.9）：オンライン形式で岡山大学を本部として開催された。
- (2) 第47回通常総会（R4.3.7）：岡山大学を本部とするオンライン形式で開催され、令和3年度会務報告、会計報告、会計監査報告、第48回評議員会における終身会員、日本農薬学会大会第48回大会（令和5年、東京農業大学）の開催の承認が報告され、令和4年度事業計画および収支予算（案）が承認された。

4) 役員会の開催

- (1) 第49回評議員会（R5.3.7）：令和4年度会務報告、会計報告が行われ、令和5年度事業計画および収支予算（案）が承認された。表彰規定、基金規定の改定が承認され、会則第8条、第13条および第16条の改定の総会への上程が承認された。終身会員が承認され、名誉会員の総会への推挙が承認された。日本農薬学会大会第49回大会（令和5年、近畿大学）の開催が承認された。
- (2) 常任評議員会：6回（R4.3.6, 4.23, 7.16, 9.3, 11.26はオンライン、R5.2.4は対面）開催。

5) 専門委員会など

- (1) 第48回編集委員会：R4.3.6に開催。学会誌への投稿状況、JPSのインパクトファクターの推移、学会誌表紙の刷新を報告。来年（R5）から非会員の投稿料の値上げおよびReview論文の投稿促進についての検討。
- (2) 常任編集委員会：3回（R4.4.23, R4.7.20, R5.1.14）対面で開催。和文誌および英文誌の掲載内容、IFの向上、論文賞の推薦、英文校正費の削減、JPSレビューの掲載本数の増加策、和文誌引用文献のタイトル記載について検討。

- (3) 学会賞受賞者選考委員会：R4.5.14, 10.1にオンラインで開催。R4.5.14に農学進歩賞の候補を選出。R4.10.1に日本農薬学会の学会賞受賞者を選出し、日本農学賞の候補者を決定。
- (4) 財務委員会
1. R4.4.18, 7.13, 9.1, 9.2, 11.24にメール会議, 12.21に対面での会議を開催。
令和4年度予算進捗の確認, 令和4年度決算・令和5年度予算の検討と提案。
 2. 学術小集会活動経費補助申請の検討。
 3. 学会の継続的適正運営に関わる経費面のシミュレーションの実施。
 4. 50周年記念事業基金設立提案。
 5. 外部監査 (R4.8.4, R5.2.9) の実施に対応。
- (5) 第48回大会組織委員会：R4.6.7, 7.6, 10.13, 12.19, R5.1.12に開催。
- (6) 将来計画委員会：R4.4.16にオンラインで実施。学会の現状把握, 大学, 学会賞, 試験場, 学術雑誌, 学術・技術支援委員会, 学術小集会, 海外との関係について検討。R4.7.1に答申提出。数回のメール会議を経て, ミニシンポジウム「未来開拓シンポジウム：将来の植物保護に向けた応用微生物学」を第48回大会（東京農業大学）で企画。
- (7) 学術・技術支援委員会：R4.6.4, 12.17にオンライン開催。メール会議数回。「農薬について知ろう」Webサイトの運営・保守管理・広報・バナー広告掲出, 残留農薬分析セミナー・講師派遣事業, 学会ホームページ運営, 「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ」改定などの活動方針について検討。
- (8) 農薬科学研究奨励金交付者審査会議：一次審査 (R4.12.9～R5.1.16メール会議), 二次審査 (R5.2.4)。
- (9) 学術小集会委員長と常任評議員との意見交換：R4.9.3に開催。活動報告・予定, 会員増に向けた取り組みなどについて意見交換。
- (10) 三学会長懇談会：R4.11.17に開催。R5年度の（一社）日本植物防疫協会への業務委託契約の確認と, 各学会の大会の開催の時期と方法について報告。日本農学賞候補者の推薦方法, 会員増に向けた取り組みについて意見交換。

6) 技術士育成推進委員会 (5学会)

令和3年度技術士二次試験（農業部門・植物保護）の合格者は5名であり, 合格者総数が153名になったとの報告があった。

2. 編集関係報告

1) 「日本農薬学会誌」掲載原稿数および頁数

巻号	掲 載 原 稿 数									頁 数	
	投稿論文	解説	受賞論文	実験技術 講座	ミニ レビュー	シンポジア	読み物 シリーズ	ショート レビュー	その他		計
47-1	0		0		0	6	1	2	1 ^a	10	30(+15)
47-2	1		4		15	0	0	2	2 ^b	24	96(+15)
合 計	1		4		15	6	1	4	3	34	126(+30)

a: 大会プログラムを掲載 (15頁)

b: 書評1編, 会則などを掲載 (15頁)

2) 「Journal of Pesticide Science」掲載原稿数および頁数

巻号	掲 載 原 稿 数							計	頁 数
	総説	報文	短報	速報	技術資料	受賞論文	その他		
47-1		4	3					7	46
47-2	1	3	1		1			6	54
47-3	1		2		1	3		7	54
47-4	1	3	2		1		3 ^a	10	66(+8) ^a
合 計	3	10	8		3	3	3	30	220(+8)

a: Contents of Volume, Keyword Index, Author Index.

3) 論文賞

候補1件を, 学会賞受賞者選考委員会に推薦した。

4) その他

- (1) JPS Vol. 47, No. 1 (2022) より冊子体を廃止することを常任評議員会に提案し承認され, 評議員会にて関連

する編集規定の改定が承認された。農業誌（和文誌）は引き続き2回冊子体を刊行。

- (2) 2022年より投稿料（非会員）を5万円から10万円に値上げ。
- (3) 2022年4月より、常任編集委員会に和文誌担当ポスト（有給）を新設。
- (3) 受付論文数（2022年）：和文1編，英文85編（掲載否43編）。
- (4) 学会誌（JPS）インパクトファクター（2021年）：2.529（2020年：1.519）。
- (5) 電子ジャーナル掲載論文へのアクセス状況（2022年）：月平均約9,120件のダウンロード，被引用件数1,837/年（2021年：11,111件，被引用件数：1,976/年）。

3. 渉外・企画関係報告

1) セミナーの開催

- (1) 残留農薬分析セミナー：オンライン形式で開催した。（R4.10.19）

2) 農業科学研究奨励金

農業科学研究に対する研究奨励金を令和4年度は以下の3件の研究に対して交付した。

- (1) 阿部 智早絵 氏（(株)化学分析コンサルタント）：(No. 202201) 農薬散布作業者の薬剤曝露評価および新規曝露評価手法の開発
- (2) 矢島 新 氏（東京農業大学）：(No. 202202) トウモロコシの自己防御機構解明を指向した合成化学的研究
- (3) 高橋 郁夫 氏（東京大学）：(No. 202203) 植物の耐暑性を賦活化する低分子化合物の創製

3) 学術小集会

- (1) 農薬残留分析研究会（第45回）：ハイブリッド開催（拠点：かがわ国際会議場，香川県高松市）。「知っておきたい農薬のマルチ分析」をテーマとして招待講演4題，特別講演1題，ポスター発表19題，話題提供セミナー「日本農薬学会および企業によるお役立ち情報」13題の発表が行われた。参加者は181名であった。（R4.11.24～25）
- (2) 農薬製剤・施用法研究会（第41回）：海外からの参加者も含めて271名が集い，特別講演（3題），技術研究発表（7題），フォーラム（1題，ただし講演要旨での報告のみ）が行われた。オンライン開催であったが，活発な議論が交わされ大盛況であった。（R4.10.14）
- (3) 農薬環境科学研究会（第39回）：R4.9.29～30にホテルグランヴェール岐山（岐阜県岐阜市）において，「化学農薬削減を目指したイノベーション：みどりの食料システム戦略を環境科学から考える」をテーマと

してハイブリッド形式で開催した。

- (4) 農薬生物活性研究会：第39回農薬生物活性研究会シンポジウムをオンラインで開催した。（R4.4.22）
- (5) 農薬デザイン研究会（第36回）：オンライン開催。「ニューノーマル時代における農薬デザイン」をテーマとして招待講演4題の発表が行われた。ポスター発表（15題）を復活し，2題に優秀ポスター賞を授与した。参加者は115名であった。（R4.11.11）
- (6) 農薬レギュラトリーサイエンス研究会（第29回）：オンライン開催。「新たに導入された「農薬使用者への影響評価」について考える」をテーマとして4題の講演が行われた。参加者は164名であった。（R4.12.15）
- (7) 農薬バイオサイエンス研究会（第21回）：岡山大学・農学部（岡山市北区）において，第47回大会との共催で「生物生態から制御剤まで」をテーマとして5題のオンライン講演が行われた。参加者は130名だった。（R4.3.9），（第22回）：京都大学・農学部（京都市左京区）において，「生物の生態と生存戦略を化学する」というテーマで4題の講演が対面＋オンデマンド視聴のハイブリッド形式で行われた。参加者は110名だった。（R4.11.22）

4) 学術小集会以外の研究会など

- (1) 2022年度日本農学会シンポジウム：東京大学弥生講堂とオンラインのハイブリッド開催（R4.10.1）
- (2) 日本生体エネルギー研究会第48回討論会：京都大学にて開催（R4.12.14～16）

5) 国際会議等派遣研究者への渡航費補助

なし

6) その他

4. 学会賞受賞者選考委員会報告

1) 業績賞（研究，技術）

評議員ならびに学術小集会委員長より推薦された業績賞（研究）1課題，業績賞（技術）1課題について慎重公正なる選考を行った結果，次の2課題を各賞の候補と決定した。

【業績賞（研究）】

滝川 浩郷 氏（東京大学）

「作物保護に資する生物活性天然物の合成化学的研究」

【業績賞（技術）】

佐藤 英孝 氏，原山 博人 氏，深津 浩介 氏，青木 隆夫 氏，泰永 涼子 氏（日本農薬株式会社）

「新規殺虫剤ベンズピリモキサンの開発」

2) 論文賞

編集委員会より推薦された論文について慎重公正なる審査を行い、候補を決定した。

「Mechanism of action and selectivity of a novel herbicide, fenquinotrione」

Shunsuke Yamamoto, Yoshitaka Tanetani, Chihiro Uchiyama, Atsushi Nagamatsu, Masami Kobayashi, Mitsumasa Ikeda, Kiyoshi Kawai (Life Science Research Institute, Kumiai Chemical Industry Co., Ltd., 276 Tamari, Kakegawa, Shizuoka 436-0011, Japan.), Vol. 46, No. 3, pp249-257 (2021)

5. 令和4年度日本農薬学会奨励賞，業績賞，論文賞の決定
学会賞受賞者選考委員会で選考された日本農薬学会業績賞，論文賞各候補について，評議員の投票により授賞が決定した。

6. 終身会員の承認

1) 終身会員の承認

会則第7条2項により，五十嵐 丕 氏，大津 悠一氏，加藤 保博 氏，切畑 光統 氏，熊沢 智 氏，桑野 栄一 氏，児玉 治 氏，小林 勝一郎 氏，吉川 博道 氏，山脇 孝博 氏を終身会員に推薦し，評議員会において承認された。

7. 規定の改定の承認

1) 日本農薬学会基金規定（平成30年5月24日改定）の改定（評議員会（R5.3.7）にて承認）

改定前	改定後
(平成30年5月24日改定) 日本農薬学会基金規定 1. 日本農薬学会細則第13条に規定する基金として，積立調整金基金，国際学術交流基金，寄付基金を設定する。 6. 各基金の対象とする事業に関しては…	(令和5年3月7日改定，令和5年3月7日実施) 日本農薬学会基金規定 1. 日本農薬学会細則第13条に規定する基金として，積立調整金基金，国際学術交流基金，寄付基金，50周年記念事業基金を設定する。 6. 50周年記念事業基金は，50周年を契機として本学会のさらなる発展に役立つことを目的として，書籍の出版，既刊学会誌等の電子化，国際学術交流，農薬科学研究奨励，農薬理解促進活動等に支出する。本基金は時限的なものとし，目的への使用が終了したのち廃止する。 7. 各基金の対象とする事業に関しては…

2) 日本農薬学会表彰規定（平成28年2月23日改定）の改定（評議員会（R5.3.7）にて承認）

改定前	改定後
(平成28年2月23日改定) 日本農薬学会表彰規定 6. 評議員および学術小集会委員長は，奨励賞および業績賞の受賞候補者を選考委員会に推薦するものとする。	(令和5年3月7日改定，令和5年4月1日実施) 日本農薬学会表彰規定 6. 正会員は，奨励賞および業績賞の受賞候補者を選考委員会に推薦できるものとする。

3) 日本農薬学会国際交流基金海外助成金による国際会議等派遣研究者応募規定（令和元年10月8日改定）の改定（評議員会（R5.3.7）にて承認）

改定前	改定後
(令和元年10月8日改定) 日本農薬学会国際交流基金海外助成金による国際会議等派遣研究者応募規定 3. 助成額 助成上限額は地域別に定めた金額を超えないものとする。 A地域 [南米・アフリカ] 25万円 B地域 [欧米] 20万円 C地域 [オセアニア・ハワイ] 15万円 D地域 [南・東南アジア] 10万円 E地域 [東アジア] 5万円 但し，その他の地域・国については，その都度決定する。	(令和5年3月7日改定，令和5年4月1日実施) 日本農薬学会国際交流基金海外助成金による国際会議等派遣研究者応募規定 3. 助成額 助成上限額は地域別に定めた金額を超えないものとする。 A地域 [南米・アフリカ] 30万円 B地域 [欧米] 30万円 C地域 [オセアニア・ハワイ] 20万円 D地域 [南・東南アジア] 15万円 E地域 [東アジア] 10万円 F [リモート会議参加] 5万円 但し，その他の地域・国については，その都度決定する。

8. 日本農薬学会倫理行動指針の制定

日本農薬学会倫理行動指針（評議員会（R5.3.7）にて承認）

日本農薬学会は学会活動を通して，関連学問分野の振興と人類福祉，社会発展に貢献するため，研究成果の公表，知識・情報の交換と学術交流を目的とする。会員はその使命と責任を自覚し，その活動においては良識と良心に従って行動するとともに，公正性と客観性を認識することにより社会影響へ配慮するため，以下の指針に従うものとする。

1. 社会に対する責任

会員は，学会活動は社会からの信託の上に成立することを自覚し，科学・技術と社会の関係を深く理解した上で，適切に行動する。また，取り巻く現状にも幅広い関心を持ち，研究と技術開発の意義と役割を社会に対する説明責任を負う。

2. 法令の遵守

会員は，法律および関連法令を遵守するのみならず，規制されていないことについても，社会的良識に基づ

いた誠実な行動に努める。

3. 人権の尊重

会員は、個人の人格および人権を尊重し、差別することなく公平性を確保するとともに、個人情報などの保護に留意し、機密情報を厳格に管理する。

4. 研究・調査活動に対する責任

会員は、学術的客観性、公正性を念頭に研究と調査を行い、成果の公表にあたっては、科学的検証に基づくものとし、ねつ造、改ざん、盗用、二重投稿などの不正行為を行わない。

5. 安全確保と環境への配慮

会員は活動を行う上で、安全を確保し、健康に十分に配慮するとともに、環境に対する影響を最小限に留めるよう努める。

6. 自己研鑽と知的交流の推進

会員は、農薬に関連する科学と技術の発展のため、専門家としての向上に励み、学会内外の研究者および技術者と連携して知識を結集し、異分野および一般社会との交流を促進する。

9. その他

II 会計報告

収支計算書

令和4年1月1日から令和4年12月31日まで

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会費収入	16,171,000	16,080,000	91,000
正会員会費収入	8,500,000	8,474,000	26,000
学生会員会費収入	100,000	76,000	24,000
海外会員会費収入	55,000	55,000	0
団体会員会費収入	504,000	483,000	21,000
購読会員会費収入	112,000	92,000	20,000
維持会員会費収入	6,900,000	6,900,000	0
会報刊行収入	860,000	589,100	270,900
頒布収入	30,000	33,500	△ 3,500
広告料収入	30,000	30,000	0
著者負担金収入	800,000	525,600	274,400
事業収入	16,980,000	10,897,248	6,082,752
大会運営収入	3,900,000	4,139,001	△ 239,001
学術小集会運営収入	12,580,000	6,358,447	6,221,553
学術・技術支援委員会収入	500,000	399,800	100,200
雑収入	113,000	418,971	△ 305,971
預金利息収入	3,000	710	2,290
雑収入	110,000	418,261	△ 308,261
事業活動収入計	34,124,000	27,985,319	6,138,681
2. 事業活動支出			
会報刊行費支出	7,920,000	5,648,469	2,271,531
旅費交通費支出	150,000	182,700	△ 32,700
通信運搬費支出	10,000	0	10,000
消耗品費支出	10,000	0	10,000
印刷製本費支出	5,200,000	3,805,285	1,394,715
編集費支出	1,900,000	1,386,450	513,550
学会誌送料支出	650,000	274,034	375,966
総会・大会費支出	3,200,000	3,099,782	100,218
学術・技術支援	1,000,000	252,379	747,621
学術小集会費支出	12,560,000	6,198,742	6,361,258
HP管理費支出	943,000	809,550	133,450
学会賞関係費支出	205,000	190,639	14,361
学術交流費支出	257,050	356,200	△ 99,150
国際学術交流費支出	1,000,000	0	1,000,000
農業科学研究奨励金支出	1,500,000	1,500,000	0
選挙管理費支出	220,000	220,000	0
事業運営費支出	1,000,000	323,238	676,762
会議費支出	500,000	79,438	420,562
旅費交通費支出	500,000	243,800	256,200
管理費支出	4,200,000	4,059,659	140,341
通信運搬費支出	250,000	147,718	102,282
消耗品費支出	150,000	74,312	75,688
事務管理費支出	3,190,000	3,190,000	0
印刷費支出	50,000	0	50,000
外部監査管理費	160,000	148,705	11,295
雑支出	400,000	498,924	△ 98,924
事業活動支出計	34,005,050	22,658,658	11,346,392
事業活動収支差額	118,950	5,326,661	△ 5,207,711
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
特定資産取得支出	0	250,000	△ 250,000
寄付基金口取得支出	0	250,000	△ 250,000
投資活動支出計	0	250,000	△ 250,000
投資活動収支差額	0	△ 250,000	250,000
III 財務活動収支の部			
財務活動収入計	0	0	0
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	118,950	5,076,661	△ 4,957,711
前期繰越収支差額	9,099,195	9,099,195	0
次期繰越収支差額	9,218,145	14,175,856	△ 4,957,711

収支計算書に対する注記

1. 資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金、未収金、仮払金、未払金、前受金、預り金及び預り金を含めている。
なお、前期末及び当期末残高は、2に記載するとおりである。

2. 次期繰越収支差額に含まれる資産および負債の内訳

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期末残高
現金・預金	14,157,470	18,311,176
未 収 金	491,301	1,019,669
仮 払 金	14,294	500
合 計	14,663,065	19,331,345
未 払 金	132,000	149,600
前 受 金	5,217,000	4,980,000
預 り 金	24,870	5,889
仮 受 金	190,000	20,000
合 計	5,563,870	5,155,489
次期繰越収支差額	9,099,195	14,175,856

貸借対照表

令和4年12月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	18,311,176	14,157,470	4,153,706
未収金	1,019,669	491,301	528,368
仮払金	500	14,294	△ 13,794
流動資産合計	19,331,345	14,663,065	4,668,280
2. 固定資産			
(2) 特定資産			
積立調整基金	12,224,379	12,224,379	0
国際学術交流基金	14,385,042	14,385,042	0
寄付基金	7,514,117	7,264,117	250,000
特定資産合計	34,123,538	33,873,538	250,000
(3) その他固定資産			
ソフトウェア	769,817	1,019,517	△ 249,700
その他固定資産合計	769,817	1,019,517	△ 249,700
固定資産合計	34,893,355	34,893,055	300
資産合計	54,224,700	49,556,120	4,668,580
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	149,600	132,000	17,600
前受金	4,980,000	5,217,000	△ 237,000
預り金	5,889	24,870	△ 18,981
仮受金	20,000	190,000	△ 170,000
流動負債合計	5,155,489	5,563,870	△ 408,381
負債合計	5,155,489	5,563,870	△ 408,381
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
一般正味財産	49,069,211	43,992,250	5,076,961
正味財産合計	49,069,211	43,992,250	5,076,961
負債及び正味財産合計	54,224,700	49,556,120	4,668,580

正味財産増減計算書

令和4年 1月 1日から令和 4年12月31日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
受取会費	16,080,000	15,339,000	741,000
正会員会費	8,474,000	7,408,000	1,066,000
学生会員会費	76,000	108,000	△ 32,000
海外会員会費	55,000	57,000	△ 2,000
団体会員会費	483,000	720,000	△ 237,000
講談会員会費	92,000	146,000	△ 54,000
維持会員会費	6,900,000	6,900,000	0
会報刊行収益	589,100	1,098,700	△ 509,600
頒布収益	33,500	27,000	6,500
広告料収益	30,000	30,000	0
著者負担金益	525,600	1,041,700	△ 516,100
事業収益	10,897,248	8,803,694	2,093,554
大会運営収入	4,139,001	4,025,000	114,001
学術小集会運営収入	6,358,447	4,315,694	2,042,753
学術・技術支援委員会収入	399,800	463,000	△ 63,200
雑収益	418,971	1,128,199	△ 709,228
預金利息	710	690	20
雑収益	418,261	1,127,509	△ 709,248
経常収益計	27,985,319	26,369,593	1,615,726
(2) 経常費用			
会報刊行費	5,648,469	9,275,392	△ 3,626,923
旅費交通費	182,700	152,600	30,100
通信運搬費	0	3,710	△ 3,710
印刷製本費	3,805,285	6,862,527	△ 3,057,242
編集費	1,386,450	1,365,871	20,579
学会誌送料	274,034	890,684	△ 616,650
総会・大会費	3,099,782	1,128,734	1,971,048
学術・技術支援	252,379	180,734	71,645
学術小集会費	6,198,742	3,371,104	2,827,638
HP管理費	809,550	919,550	△ 110,000
学会賞関係費	190,639	355,784	△ 165,145
学術交流費	356,200	207,050	149,150
農業科学研究奨励金	1,500,000	1,000,000	500,000
選挙関連費	220,000	0	220,000
事業運営費	323,238	180,707	142,531
会議費	79,438	61,207	18,231
旅費交通費	243,800	119,500	124,300
管理費	4,309,359	4,145,162	164,197
通信運搬費	147,718	122,983	24,735
消耗品費	74,312	26,829	47,483
事務管理費	3,190,000	3,190,000	0
減価償却費	249,700	218,533	31,167
外部会計監査費	148,705	154,274	△ 5,569
雑費	498,924	432,543	66,381
経常費用計	22,908,358	20,764,217	2,144,141
評価損益等調整前当期経常増減額	5,076,961	5,605,376	△ 528,415
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	5,076,961	5,605,376	△ 528,415
2. 経常外増減の部			
経常外収益計	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	5,076,961	5,605,376	△ 528,415
一般正味財産期首残高	43,992,250	38,386,874	5,605,376
一般正味財産期末残高	49,069,211	43,992,250	5,076,961
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
III 正味財産期末残高	49,069,211	43,992,250	5,076,961

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針
消費税等の会計処理は税込み方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高
特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
積立調整基金口	12,224,379	0	0	12,224,379
国際学術交流基金	14,385,042	0	0	14,385,042
寄付基金口	7,264,117	250,000 ^a	0	7,514,117
合計	33,873,538	250,000	0	34,123,538

^a 上杉康彦氏より寄付

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳
特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
特定資産				
積立調整基金口	12,224,379	(0)	(12,224,379)	(0)
国際学術交流基金	14,385,042	(0)	(14,385,042)	(0)
寄付基金口	7,514,117	(0)	(7,514,117)	(0)
合計	34,123,538	(0)	(34,123,538)	(0)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(単位:円)

科目	取得価額	当期減少額	減価償却累計額	当期末残高
ソフトウェア(クレジット機能)	313,500	62,700	135,850	177,650
ソフトウェア(大会システム)	935,000	187,000	342,833	592,167
合計	1,248,500	249,700	478,683	769,817

財産目録
令和4年12月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	金額
(流動資産)			
現金 預金		手元保管	67,596
		普通預金	7,740,934
		三井住友銀行白山支店	5,260,932
		三井住友銀行白山支店	273,000
		PayPay銀行	871,438
		SMBC信託銀行	1,335,564
		定期預金	9,000,000
		PayPay銀行	9,000,000
		振替貯金	1,775,646
		未収金	1,019,669
		仮払金	500
農薬	500		
流動資産合計			19,604,345
(固定資産)			
特定資産			
積立調整基金		三井住友銀行白山支店定期	12,224,379
		国際学術交流基金	12,224,379
		三井住友銀行白山支店定期	14,385,042
		PayPay銀行 定期	12,885,042
		1,500,000	
寄付基金		三井住友銀行白山支店定期	7,514,117
		SMBC信託銀行	6,964,117
550,000			
その他固定資産			
ソフトウェア			769,817
固定資産合計			34,893,355
資産合計			54,497,700
(流動負債)			
未払金 前受金 正会員 学生会員 海外会員 団体会員 預り金 仮受金			149,600
			4,980,000
			4,948,000
			20,000
			5,000
			7,000
			5,889
			293,000
流動負債合計			5,428,489
負債合計			5,428,489
正味財産			49,069,211

III 会計監査報告

令和4年度日本農業学会の事業報告および決算について監査の結果、的確であることを認めます。

令和5年2月9日

監事 佐藤 幸治 印
三富 正明 印

IV 議事

1. 令和4年度事業報告および決算の承認

2. 令和5年度事業計画および収支予算（案）の承認

1) 会誌の発行：日本農薬学会誌 第48巻，第1号～第2号
Journal of Pesticide Science (JPS) 誌 第48巻，第1号～第4号

2) 第48回大会の開催：R5.3.8～10，東京農業大学世田谷キャンパス（東京都世田谷区）にて開催。

3) 日本農薬学会賞および論文賞の授与

4) 専門委員会などの開催

- (1) 編集委員会
- (2) 常任編集委員会
- (3) 学会賞受賞者選考委員会
- (4) 財務委員会
- (5) 第48回大会組織委員会
- (6) 将来計画委員会
- (7) 学術・技術支援委員会
- (8) 農薬科学研究奨励金交付者審査会議（一次および二次）

5) セミナーの開催

- (1) 残留農薬分析セミナー 2023を開催予定（開催方式、開催時期などの詳細未定）
- (2) 農薬の安全性などに関する講師派遣（予定）

6) 学術小集会，講演会などの開催

- (1) 農薬残留分析研究会：第46回農薬残留分析研究会をアクティールホール（長野県長野市）において開催。（R5.11.13～14）
- (2) 農薬製剤・施用法研究会：第42回農薬製剤・施用法シンポジウムをなら100年会館（奈良県奈良市）において開催。（R5.9.28～29）
- (3) 農薬環境科学研究会：第40回農薬環境科学研究会を愛媛県において令和5年秋頃開催予定。（R4.9.30開催の委員会で承認）
- (4) 農薬生物活性研究会：第40回農薬生物活性研究会シンポジウムをオンライン形式で開催。（R5.4.21）
- (5) 農薬デザイン研究会：第38回農薬デザイン研究会を（大阪市）において開催。（R5.11.22）
- (6) 農薬レギュラトリーサイエンス研究会：第30回シンポジウムを11月頃で開催。（開催方法および開催地未定）
- (7) 農薬バイオサイエンス研究会：第23回農薬バイオサイエンス研究会を東京農業大学（東京都世田谷区）において開催。（第48回大会との共催）（R5.3.9），第24回研究会を11月頃を開催予定。（開催方法および開催地未定）

7) 農薬科学研究奨励金の交付

- (1) 吉永 直子 氏（京都大）：サポナイトによる産卵抑制メカニズムの解明
- (2) 浅野 美和 氏（農研機構）：薬剤抵抗性発達に関わる解毒分解酵素の網羅的探索と機能解析

8) 令和5年度収支予算(案)

収支予算書

令和5年1月1日から令和5年12月31日まで

(単位:円)

科 目	令和5年度年度予算案	令和4年度年度予算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
会 費 収 入	15,714,000	16,171,000	△ 457,000
正 会 員 会 費 収 入	8,080,000	8,500,000	△ 420,000
学 生 会 員 会 費 収 入	68,000	100,000	△ 32,000
海 外 会 員 会 費 収 入	50,000	55,000	△ 5,000
団 体 会 員 会 費 収 入	504,000	504,000	0
購 読 会 員 会 費 収 入	112,000	112,000	0
維 持 会 員 会 費 収 入	6,900,000	6,900,000	0
会 報 刊 行 収 入	860,000	860,000	0
頒 布 収 入	30,000	30,000	0
広 告 料 収 入	30,000	30,000	0
著 者 負 担 金 収 入	800,000	800,000	0
事 業 収 入	18,960,000	16,980,000	1,980,000
大 会 運 営 収 入	5,540,000	3,900,000	1,640,000
学 術 小 集 会 運 営 収 入	12,920,000	12,580,000	340,000
学 術 ・ 技 術 支 援 委 員 会 収 入	500,000	500,000	0
雑 収 入	111,000	113,000	△ 2,000
預 金 利 息 収 入	1,000	3,000	△ 2,000
雑 収 入	110,000	110,000	0
事業活動収入計	35,645,000	34,124,000	1,521,000
2. 事業活動支出			
会 報 刊 行 費 支 出	6,170,000	7,920,000	△ 1,750,000
旅 費 交 通 費 支 出	250,000	150,000	100,000
通 信 運 搬 費 支 出	10,000	10,000	0
消 耗 品 費 支 出	10,000	10,000	0
印 刷 製 本 費 支 出	3,900,000	5,200,000	△ 1,300,000
編 集 費 支 出	1,500,000	1,900,000	△ 400,000
学 会 誌 送 料 支 出	500,000	650,000	△ 150,000
総 会 ・ 大 会 費 支 出	5,540,000	3,200,000	2,340,000
学 術 ・ 技 術 支 援 委 員 会 支 出	1,500,000	1,000,000	500,000
学 術 小 集 会 費 支 出	13,138,000	12,560,000	578,000
H P 管 理 費 支 出	900,000	943,000	△ 43,000
学 会 賞 関 係 費 支 出	205,000	205,000	0
学 術 交 流 費 支 出	256,200	257,050	△ 850
国 際 学 術 交 流 費 支 出	1,000,000	1,000,000	0
農 業 科 学 研 究 奨 励 金 支 出	1,000,000	1,500,000	△ 500,000
男 女 共 同 参 画 支 援 費	150,000	0	150,000
選 挙 管 理 費 支 出	0	220,000	△ 220,000
事 業 運 営 費 支 出	1,500,000	1,000,000	500,000
会 議 費 支 出	700,000	500,000	200,000
旅 費 交 通 費 支 出	800,000	500,000	300,000
管 理 費 支 出	4,200,000	4,200,000	0
旅 費 交 通 費 支 出	0	0	0
通 信 運 搬 費 支 出	250,000	250,000	0
消 耗 品 費 支 出	150,000	150,000	0
事 務 管 理 費 支 出	3,190,000	3,190,000	0
印 刷 費 支 出	50,000	50,000	0
外 部 監 査 管 理 費	160,000	160,000	0
雑 支 出	400,000	400,000	0
事業活動支出計	35,559,200	34,005,050	1,554,150
事業活動収支差額	85,800	118,950	△ 33,150
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
特 定 資 産 取 崩 収 入	0	0	0
積 立 調 整 金 取 崩 収 入	0	0	0
国 際 学 術 交 流 基 金 取 崩 収 入	0	0	0
寄 付 基 金 取 崩 収 入	0	0	0
投 資 活 動 収 入 計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投 資 活 動 支 出 計	13,000,000	0	0
積 立 調 整 金 取 崩 支 出	0	0	0
国 際 学 術 交 流 基 金 取 崩 支 出	0	0	0
寄 付 基 金 取 崩 支 出	0	0	0
50周 年 記 念 行 事 基 金	13,000,000	0	0
投資活動収支差額	△ 13,000,000	0	△ 13,000,000
当期収支差額	△ 12,914,200	118,950	△ 13,033,150
前期繰越収支差額	14,425,856	9,099,195	5,326,661
次期繰越収支差額	1,511,656	9,218,145	△ 7,706,489

3. 会則の改定の承認

日本農薬学会会則（令和3年3月8日改定）の改定

改定前	改定後
<p>(平成30年5月24日改定) 日本農薬学会会則</p> <p>第8条 名誉会員および終身会員を除く会員は、次の年会費を前納しなければならない。</p> <p>1 正会員（年額） 10,000円</p> <p>第13条 本会は、次の役員をおく。</p> <p>1 会長1名 2 副会長3名 3 評議員 会員の互選による者、70名 会長の指名による者、20名以内 会長および副会長であった者。 4 監事2名 5 顧問若干名</p> <p>第16条 副会長2名、評議員20名以内および顧問は、会長がこれを指名し、評議員会の承認を経てこれを委嘱することができる。</p>	<p>(令和5年3月7日改定、令和5年4月1日実施) 日本農薬学会会則</p> <p>第8条 名誉会員および終身会員を除く会員は、次の年会費を前納しなければならない。</p> <p>1 正会員（年額） 10,000円（ただし65歳以上で申し出があれば5,000円とし、学生会員から変更した場合は2,000円を2年間据え置く。）</p> <p>第13条 本会は、次の役員をおく。</p> <p>1 会長1名 2 副会長3名 3 評議員 会員の互選による者、70名 会長の指名による者、<u>30名以内</u> 会長および副会長であった者。 4 監事2名 5 顧問若干名</p> <p>第16条 副会長2名、<u>評議員30名以内</u>および顧問は、会長がこれを指名し、評議員会の承認を経てこれを委嘱することができる。</p>

4. 名誉会員の承認

会則第7条1項により、佐藤 清 氏、辻 孝三 氏、星野敏明 氏、本山 直樹 氏、米山 弘一 氏を推挙する。

5. 日本農薬学会第49回大会（2024年）について

第49回大会を2024年3月に近畿大学奈良キャンパス（奈良市）において開催することが評議員会において承認された。

6. その他

役 員
(2023.4.1~2025.3.31)

会 長	松田 一彦 (近畿大)		
副 会 長	與語 靖洋 (植調協会)	飯島 和昭 (残農研)	元場 一彦 (日本農薬)
顧 問	内田又左衛門 (緑安協)	佐藤 清 (元 残農研)	田中 啓司 (近畿大)
監 事	斎藤 勲 (東海コープ)	三富 正明 (法政大)	
評 議 員	青山 博昭 (残農研)	旭 美穂 (日産化学)	浅見 忠男 (東京大)
	有江 力 (東京農工大)	池田 佑美 (玉川大)	石原 亨 (鳥取大)
	石原 悟 (農水省)	伊藤 晋作 (東京農大)	乾 秀之 (神戸大)
	伊原 誠 (近畿大)	岩船 敬 (農水消安セ)	上野 英二 (愛知県衛生研)
	上山 功夫 (化学分析コンサル)	王 敬銘 (秋田県大)	太田 広人 (崇城大)
	大竹 敏也 (愛知県農総試)	大野 竜太 (北興化学)	大山 和俊 (残農研)
	岡澤 敦司 (大阪公大)	荻山 和裕 (日植防)	甲斐 建次 (大阪公大)
	片木 敏行 (住友化学)	片山 新太 (名古屋大)	勝田 裕之 (三井化学アグロ)
	加藤 康仁 (日本化薬)	門岡 織江 (住化テクノ)	河合 清 (クミアイ化学)
	木戸 庸裕 (北興化学)	木村 幸夫 (日本エコテック)	清田 洋正 (岡山大)
	小森 岳 (住友化学)	坂 真智子 (エスコ)	坂本 典保 (広栄化学)
	佐藤 一行 (三井化学アグロ)	佐野 宏己 (三井化学アグロ)	塩月 孝博 (島根大)
	柴田 哲男 (名古屋工大)	島村 裕二 (農水省)	島本 文子 (高知県農技セ)
	清水 力 (クミアイ化学)	謝 肖男 (宇都宮大)	須恵 雅之 (東京農大)
	須戸 幹 (滋賀県大)	巢山 弘介 (島根大)	清家 伸康 (農研機構)
	関野 景介 (SDS バイオテック)	高木 和広 (農研機構)	高橋 宣好 (OAT アグリオ)
	滝川 浩郷 (東京大)	田中 千尋 (京都大)	田村 廣人 (名城大)
	塚本 正満 (石原産業)	富ヶ原祥隆 (住友化学)	富澤 元博 (東京農大)
	中川 好秋 (京都大)	仲下 英雄 (福井県大)	中谷 昌央 (クミアイ化学)
	中西 充 (香川県農試)	中村 英光 (東京大)	永山 敏廣 (明治薬科大)
	夏目 雅裕 (東京農工大)	成田伊都美 (埼玉県農研セ)	西川 学 (奈良県農研セ)
	西松 哲義 (日本農薬)	西脇 寿 (愛媛大)	丹羽 隆介 (筑波大)
	野下 浩二 (秋田県大)	橋本 誠 (北海道大)	橋本 良子 (東京都農林財団)
	濱口 洋 (元 日本農薬)	番場 伸一 (三井化学アグロ)	日野 智和 (日本農薬)
	平井 憲次 (相模中研)	平田 晃一 (日本曹達)	藤田 眞弘 (全農)
	藤村 真 (東洋大)	藤村 佳樹 (バイエル)	古谷 敬 (日本農薬)
	松本 宏 (筑波大)	丸 論 (化学分析コンサル)	三田 猛志 (日産化学)
	三谷 晃 (日本曹達)	水口智江可 (名古屋大)	宮川 恒 (京都大)
	宮崎 翔 (東京農工大)	宮下 正弘 (京都大)	三芳 秀人 (京都大)
	村井 正俊 (京都大)	村野 宏達 (名城大)	望月 証 (兵庫県農水総セ)
	森本 正則 (近畿大)	森山 裕充 (東京農工大)	矢野 祐幸 (クミアイ化学)
	矢吹 芳教 (大阪環農水総研)	藪崎 隆 (全農)	山内 聡 (愛媛大)
	山本 敦司 (日本曹達)	山本 幸洋 (千葉県農研セ)	横田 篤宜 (農薬工業会)
	横山 昌雄 (植調協会)	吉實 隆志 (日本農薬)	吉田 隆延 (農研機構)
	米田 哲夫 (石原産業)	渡邊 裕純 (東京農工大)	

常任評議員

総務担当：村井 正俊 伊藤 晋作 仲下 英雄 水口智江可
 財務担当：佐野 宏己
 編集担当：滝川 浩郷 森山 裕充
 渉外・企画担当：西脇 寿 橋本 誠 矢吹 芳教 山本 敦司

名 誉 会 員

安部 浩	安藤 哲	梅津 憲治	大川 秀郎	佐々木 満	佐藤 清
正野 俊夫	高橋 正三	谷口 栄二	辻 孝三	中津川 勉	中村 幸二
西村勁一郎	深海 浩	星野 敏明	前田 泰三	丸茂 晋吾	宮本 徹
本山 直樹	山口 勇	山本 出	山本 廣基	米山 勝美	米山 弘一

終 身 会 員

浅利 健二	安部八洲男	有田 浩之	飯田 格	五十嵐 丕	石井 康雄
岩本 毅	白井 健二	上山 功夫	内田又左衛門	越中 俊夫	遠藤 武雄
大津 悠一	大原 詔雄	岡田 至	利部 伸三	加藤 肇	加藤 保博
金子 俊彦	川端 成彬	木村 俊夫	切畑 光統	下松 明雄	倉橋 良雄
熊沢 智	桑野 栄一	桑原 保正	児玉 治	小林勝一郎	小林 裕子
近内 誠登	斎藤 勲	佐藤 元昭	実光 穰	穴戸 孝	城島 輝臣
杉山 浩	鈴木 敏雄	高山千代蔵	武居 三郎	竹内 安智	竹柴 英雄
竹田 勇	谷中 国昭	千野 義彦	辻 英明	土屋 秀士	遠山 輝彦
富田 文夫	成瀬 功	馬場 洋子	林 眞守	堀 伸二郎	堀 正大
本田 博	牧野 孝宏	益子 道生	俣野 修身	松山 宣明	水谷 純也
山脇 孝博	横山佐太正	吉川 博道	米澤 泰治		

第49回JPS編集委員会 議事

日 時：令和5年3月7日(火) 15:15～16:00
 開催場所：東京農業大学世田谷キャンパス1号館111教室
 出席者：26名
 欠席者：21名
 議事：

- 1) 報告事項
- 2) 質疑
- 3) 来期について

第216回JPS常任編集委員会 議事

日 時：令和5年3月25日(土) 15:15～17:00
 開催場所：日本植物防疫協会地下1階会議室
 出席者：13名
 欠席者：3名
 議事：

- 1) 報告事項
- 2) 審議事項
- 3) その他

会 員 動 静

(令和4年11月16日～令和5年1月31日)

入会

正会員

上中 弘典	古橋 孝将	崔 宰熏	渡邊 敬浩
石井 直樹	齊藤 竜男	佐々木 一	亀崎 将司
樋口 夏寧	小林 由幸	大久保早季	
VAVRICKA Christopher J.	北岡 直樹	崎浜 靖子	
村井 勇太	服部 夏実		

学生会員

三村 勇介	丸山世莉乃	高山 浩一	櫛原 立冬
中村 皓毅	根本 健司	堺 祥一	岸端 咲良
繁定 拓舞	佐藤 友昭	西田 美咲	中嶋 洋人
河原 大輝	田中あゆむ	北村 心	大坪 柊也
岩田 愛莉	横山日向子	佐藤 一裕	岩田 幸介
香山健太郎	森澄 海人	佐々木慶太	伊藤 晴弥
王 梓鳳	廣角 道信		

海外会員

Chun-Wei Tung

(受付順)

退会

主催：日本農薬学会，農薬環境科学研究会
会場：ホテルマイステイズ松山（愛媛県松山市）

終身会員

薬丸 薫 吉田 茂男

正会員

秋山美佐紀	遠藤 正造	波多野連平	高延 雅人
南手 良裕	宮 賢治	森島 靖雄	小田中芳次
大津 和久	佐山 玲	鈴木 聡	得田紀代美
刀祢 英	渡辺 栄喜	山端 直樹	山地 充洋
柳 幹夫	飯田 哲哉	山本 幸治	北原 由美
青山 雅一	小杉 正樹	岡村 充康	大平 大輔
越山 竜行	小柳 雅裕	村田 晃一	小野木由佳
芝崎 健悟	林 直人	富永 秀人	石岡 巖
増田 有紀	石井優之介	山村 円香	丸野 晃暉
石丸 純一	新藤美樹子	栢森 美如	加藤 貴央
五井 達也	中嶋 直子	大貫 晋平	桑名 晶妃

28日(木)～29日(金) 第42回農薬製剤・施用法研究会シンポジウム

主催：日本農薬学会 農薬製剤・施用法研究会
会場：奈良県奈良市

11月

13日(月)～14日(火) 第46回農薬残留分析研究会

主催：日本農薬学会，農薬残留分析研究会
会場：アクティールホール（長野県長野市）

22日(水) 第38回農薬デザイン研究会

主催：日本農薬学会，農薬デザイン研究会
会場：大阪市

団体会員

一般社団法人新日本検定協会 特許庁

学会関連カレンダー

太字は日本農薬学会が主催，共催，協賛，後援する会議など

2023年

9月

14日(木)～15日(金) 第40回農薬環境科学研究会

(日程未定) 第24回農薬バイオサイエンス研究会

主催：日本農薬学会，農薬バイオサイエンス研究会
詳細が決まり次第，ホームページなどでお知らせします。

(日程未定) 第30回農薬レギュラトリーサイエンス研究会

主催：日本農薬学会，農薬レギュラトリーサイエンス研究会
詳細が決まり次第，ホームページなどでお知らせします。

「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ改訂4版2018」のご案内

日本農薬学会では，精度の高い残留農薬分析を実施する上で特に配慮すべき事項を「Q & A」形式に取りまとめた「残留農薬分析知っておきたい問答あれこれ」を出版しています。2003年に初版を発行以来，好評を博して改訂を重ね，現在最新版が改訂4版となっております。改訂4版では，前3版出版以降の農薬登録制度の動向を反映させ，最新の科学的知見を盛り込むよう全文の見直しを行ったうえで，初学者の方にも，より読みやすくなるよう心がけて内容を再整理しました。また，携行性を高めるために軽量化を図りました。前版と同様に残留農薬分析の基本やノウハウを得るための参考書として，さらに，食の安全に関心をお持ちの幅広い方々に対しても，農薬の規制についての理解の一助となるようお役に立てると幸いです。定価は3,000円です（送料別）。

購入申込み方法：

メールまたはFAXにて，以下の日本農薬学会事務局に氏名，所属，メールアドレス，電話番号，送付先住所，購入冊数（FAX申込みの場合はFAX番号）などをご連絡下さい。また，メールなどの件名には「問答あれこれ購入」と記入して下さい。折り返し請求書（送料を含む）を同封し発送しますので，振込みをお願いします。詳細は，学会ホームページもご参照ください。日本農薬学会事務局：

〒114-0015 東京都北区中里2丁目28番10号 日本植物防疫協会内

FAX: 03-5980-0282

MAIL: nouyaku@pssj2.jp

学会HP: http://pssj2.jp/overview/book_zanryu.html

※平成30年の農薬取締法改正に伴い更新が必要となった記事を新旧対照表として取りまとめました。学会ホームページ上 (http://pssj.jp/overview/book_zanryu.html) で公開していますので、ご参照ください。



「農薬について知ろう」ウェブサイトのご案内

日本農薬学会は学会ウェブサイト内に「農薬について知ろう」というサイトを開設しています。このサイトでは、農薬に関する理解を助けるため行政や公的機関などの情報を中心に紹介しています。

食品の安全に対する関心が高い中、家庭や学校など日常生活の中で農薬が話題となる機会も多いですが、関連する情報は散在しており、知りたい情報にたどり着くのに苦労することも少なくありません。そこで農薬のことを十分に理解するための多方面の情報を一元的かつ簡単に検索でき、食の安全や健康影響、環境影響などを考える際に利用できるポータルサイトとして運営しています。

このサイトでは、情報を必要としている方々に応じて小学生、一般の方、先生、農業・流通業関係者の4つのグループに分けて情報が整理されています。また、小学生向けには漢字にルビを振るとともに、分かりやすい情報サイトを選び紹介しています。さらに、情報は「規制」、「安全性」、「薬剤」、「環境・残留」、「農業」のカテゴリー別に分類されています。「規制」は農薬の登録や管理に係る法律、試験方法、農薬残留基準、食品の輸出入など、「安全性」は毒性、安全性、健康影響、リスク評価やリスク管理の考え方、「薬剤」は農薬の種類や特徴、農薬の使用法、「環境・残留」は農薬の残留、環境中の分解、環境生物への影響など、「農業」は効果、薬害、防除、農法などについて整理されています。また、キーワードからカテゴリーごと、あるいは、50音別・アルファベット順別に縦横に検索できる機能も備えています。農薬に直接関わらない子供たちや一般の方々に向けてだけでなく、農薬や農業の専門家の方々にも十分役立つような情報を収録する工夫がされています。

今後も新しい規制や技術、知見など収録情報の追加や更新を継続していきます。皆様にご活用いただけますようお願いいたします。

日本農薬学会のトップページや下記のアドレスからご覧ください。

<http://pssj.jp/rikai/index.shtml>



講師派遣のご案内

日本農薬学会では、一般市民や農業、教育関係の方々に農薬に関する知識や理解を深めていただくことを目的として、専門家を講師として派遣しています。派遣講師が行う講義の内容は、食料生産、作物保護、食品安全、環境影響、薬剤抵抗性、農薬製剤・施用法、農薬をめぐる諸問題など、ご要望にできる限り沿うようにしたいと考えておりますので、遠慮なくご相談ください。本活動にご興味がありましたら、学会ホームページ (http://pssj.jp/overview/semina/haken_16.html) をご参照のうえ、日本農薬学会事務局にご連絡ください。



【予告】 農薬科学研究奨励金のご案内

日本農薬学会では、農薬科学研究の支援を目的として、特に競争的資金の獲得が難しい研究課題や研究者の方々にも利用して頂けるよう、農薬科学研究奨励金の交付を行っています。今年度は令和6年度交付分の募集を9～11月に予定していますので、応募をお考えの皆様には是非前もってご準備下さい。詳細な応募要件などは、後日正式に決定次第、ご案内いたします。

過去の採択課題：http://pssj2.jp/inside/past_grant.html



発行所：日本農薬学会

〒114-0015 東京都北区中里2-28-10

一般社団法人日本植物防疫協会内

FAX: 03 (5980) 0282

E-mail: nouyaku@pssj2.jp